

概況総括：『引き続き好調を維持しているが、人手不足が依然として深刻化している。』

【調査概要】

1. 今期(平成 29 年 7-9 月期)の業況調査 DI12 項目では、プラス DI は、「売上高」32.3(前回 22.9)、「受注単価販売価格」3.5(前回 2.0)、「収益状況」10.3(前回 8.3)、「資金繰り」8.5(前回 9.3)、「操業率」23.6(前回 19.5)、「受注残」8.7(前回 0.0)「生産設備」21.3(前回 15.3)、「来期受注」20.0(前回 19.7)、「来期採算」6.2(前回 4.6)、「来期資金繰り」6.3(前回 2.6)の 10 項目(前回 9 項目)となった。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの 9 項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は 32.3(前回 22.9)と更に増加しており、堅調に推移している。「資金繰り」が 8.5(前回 9.3)と唯一悪化しているが、その他の 8 項目では引き続き改善している。
一方、「原材料単価」は▲44.4(前回▲47.0)と少し改善したが、引き続き上昇している。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」23.6(前回 19.5)、「受注残」8.7(前回 0.0)「生産設備」21.3(前回 15.3)と 3 項目全てで堅調に推移しており、残業等での対応が増えている。引き続き、人員の確保が急務であり、ロボット等による生産設備の自動化・省力化対策が求められる。
3. 来期については、「来期受注」20.0(前回 19.7)、「来期採算」6.2(前回 4.6)、「来期資金繰り」6.3(前回 2.6)と 3 項目とも堅調に推移している。
4. 「企業経営上の悩み」については、今年に入り一番の悩みとなった「人材不足」が 46.2(前回 46.0)と引き続き高い水準にあり、人手不足が依然として深刻化している。
5. 今回の調査でも、前期よりさらに改善し好調を維持している。建設機械関連では排ガス規制の駆け込み需要による反動が懸念されていたが、引き続き好調に推移している。
しかしながら、人手不足がさらに深刻化しており、現人員の育成やロボット等の自動化・省力化設備の導入などが喫緊の課題となっており、企業業績に影響を及ぼしかねない状況となっている。
また、来期についても景気の持続が期待されてはいるが、米国や中国等の経済政策、北朝鮮情勢をめぐる経済動向に留意する必要がある。

